



高松町付近の上空写真（水資源機構提供）

「水の歌の「畑の虹」昭和56年 山田もと

畑にはじめて流れ出た
あの水の手ざわりを、味を、
わしゃ今でもよう覚えとる。
こりやあ、
百姓の夜明けになるずらよ。

水の一滴は血の一滴

豊川用水は日本で最も成功した用水事業といわれています。それは通水により飛躍的な発展を遂げた本市の農業を指しているといえます。その発展を信じ、途方もない計画の実現を訴え続けた近藤や先人たちの「先見の明」は素晴らしいものでした。

そして現在も豊川用水二期事業は続いています。これは100年先も本市の農業が発展し続けるためには、水の安定供給が必要不可欠であることを物語っています。水は本市の農業の生命線なのです。

「水の一滴は血の一滴」

わずか50年前、渥美半島の水はこう例えられたほど貴重なものでした。この言葉の重みは今も昔も変わりません。この言葉を忘れず、私たちは「水がある幸せ」を次の世代に引き継がなければなりません。

豊川用水通水50周年記念

渥美半島の農業の歩みと豊川用水

7月14日^土～9月2日^日

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）

会場：田原市博物館

観覧料：高校生以上400円（320円）、中学生以下無料
（ ）内は20人以上の団体料金

主な展示物：田原の農業と豊川用水に関わる文書・民具など

展示解説：7月21日（土）午前11時～、8月25日（土）午前11時～

関連行事

田原市の農業の歴史と豊川用水工事見学

日時：8月8日（水）午前9時30分～

定員：30名（先着） 申込：7月14日（土）から電話にて

▶ 田原市博物館 ☎22-1720



豊川用水通水を大きなきっかけとして、渥美半島は日本有数の農業地帯となりました。しかし、江戸時代まで「奥郡」と呼ばれており、大きな河川がないため常に渇水に悩まされ、農業に適さない赤土の荒地が広がる、農業困難地域でした。

今回の企画展では、豊川用水通水50周年を記念して、通水以前の渥美半島の農業に係った先人たちが、どのような工夫と努力によって、農業の発展の基礎をつくってきたかを概観します。また、高松町出身の近藤寿市郎が提唱した豊川用水構想を振り返ると共に、通水後の渥美半島の農業がどのように発展してきたかを展示します。